

1 新技術開発の経緯及び内容

農業総合試験場と福花園種苗株式会社との共同研究において、ガラス容器内でトルコギキョウの草丈を 10 cm 程度に抑えて花を咲かせることに成功しました。

なお、この技術は平成 17 年 5 月 18 日に特許出願しました。

2 愛知万博中部千年共生村での紹介

- (1) 愛知万博長久手会場の中部千年共生村で農業総合試験場が担当するワークショップ（7月29日（金）から8月2日（火）の5日間）において展示するとともに、参加者に記念品として配布します。
- (2) ワークショップでは、バイオテクノロジー技術の基礎となる「植物の組織培養法」について、キクを用いて実際に体験します。
- (3) ワークショップの開催時間、定員、申込方法等は、開催初日の2週間前から中部千年共生村ホームページ (<http://www.chubu1000.jp>) でご覧になれます。

3 新技術の特徴

- (1) 通気性、培地養分の種類や濃度、照明時間や強度など様々な条件を組み合わせることで、草丈を 10cm 程度に抑えて開花させる技術を確立しました。
- (2) ガラス小瓶の中の培地に、水と肥料を含んでいるので、水やりなどの手間をかける必要がなく、可愛い贈り物やインテリアとして楽しむことができます。
- (3) 一般家庭での花の観賞期間は、3週間程度です。
- (4) ガラス瓶内は、無菌状態に保たれているため、カビや雑菌が繁殖することはない、植物にとって生育するためには最適の環境となっています。

4 関連説明

- (1) トルコギキョウは、リンドウ科の1年草で、草丈は、切り花用の品種は 80cm から 90 cm 程度、草丈の短い矮性品種でも 20cm から 30cm 程度になり、自然の開花時期は6月から8月頃です。
- (2) ガラス容器内のトルコギキョウは、滅菌したガラス容器内を用い、種まき及び植え替えなどすべての工程を無菌状態で行い、人工照明で育てられます。種まきから花が咲くまで約4か月かかります。
- (3) トルコギキョウの生産量は全国で1億1680万本、愛知県で600万本（第7位）です。

* 中部千年共生村は、中部9県が共同出展するパビリオン。各県が週替わりでワークショップを開催。